

中野市国民健康保険事業の運営に関する協議会 会議録（要約）

日 時	令和2年10月22日（木） 13:30～14:45
会 場	中野市役所5階 会議室52・53号
出席者	<p>【委員】 渡辺会長、池田副会長、若林委員、池田委員、小林委員、飯田委員、熊木委員、畔上委員、夏目委員、矢野委員、吉家委員、上田委員、西澤委員、山岸委員、西野委員、品田委員</p> <p>【事務局】 健康福祉部長、福祉課長、国保医療係長、係員</p>
欠席者	<p>【委員】 なし</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 会議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度中野市国民健康保険事業特別会計決算について (2) 令和元年度国民健康保険事業の実施状況について (3) その他 4 その他 5 閉会
資料	資料1 令和元年度中野市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算 資料2 国民健康保険事業について 資料3 保健事業の実施状況について 資料4 令和元年度東日本台風被災者への対応について 資料5 新型コロナウイルス感染症への対抗について 追加資料 信濃の国保2020年9月号（抜粋）

1 開会

(福祉課長)

2 あいさつ

(健康福祉部長)

(会長)

3 会議事項

(1) 令和元年度中野市国民健康保険事業特別会計決算について

【事務局】

(資料 1 を説明)

【委員】

特になし

(2) 令和元年度中野市国民健康保険事業について

【事務局】

(資料 2、3 を説明)

【委員】

加入率が高く、医療費が低いのなら、税率を下げてもいいのではないか。
ジェネリックへの切り替え率と効果額はどのくらいか。

【事務局】

平成 30 年の国保税度改革により県が財政運営の責任主体となり、市町村が徴収した国保税に医療費や所得水準を考慮し、納付金を集めるようになりました。

そして、集めた納付金を被保数、世帯数、所得水準等で按分し医療費水準を反映させ各市町村へ交付金として配分するようになりました。

医療費と国保税の関係ですが、中野市は県内他市と比較し加入者が多く、所得水準が高く、年齢構成が若干若いことから、県への納付金が高くなる傾向にあります。

医療費が低いという理由で国保税を下げることは、納付金の財源が減ってしまうため、他に財源を求めることになり財源確保が難しくなってしまいます。

ジェネリックですが、切り替え率、効果額は把握していません。

利用率として 2020 年 3 月時点ですが、数量ベースでジェネリックが約 83%、先発薬が約 17%となっています。金額ベースでは、ジェネリックが約 56%、先発薬が約 44%となっております。毎月ほぼ同水準で推移しております。

【委員】

人間ドック助成について、助成金は毎年同じ額なのか。

毎年受けている人は何人いるのか。

また、助成に要した事業費はいくらか。

【事務局】

助成額についてですが、昨年、消費税増税分として増額しましたが、ここ数年同額としています。

個人単位の交付実績を集計している資料を持ち合わせていません。

人間ドック普及事業費として、保健事業費決算額 61,022,870 円のうち令和元年度決算額は 14,947,352 円でした。

(3) その他について

【事務局】

(資料 4、5 を説明)

【委員】

特になし

4 その他

「信濃の国保 9 月号」のうち「保険者だより」という企画紙面へ中野市が寄稿しました。

お手元に記事の抜粋をお配りしましたので、時間のあるときにご覧いただきたいと思えます。

次回は、予算（案）についてご審議いただきたいと考えています。

時期は、例年ですと 1 月下旬となっています。

5 閉会

終了 14 時 45 分